

令和7年度神奈川県立鶴見支援学校

第1回学校運営協議会開催結果

開催日時	令和7年6月16日(月)
開催会場	鶴見支援学校
参加者	10名
会議資料	<p>○学校運営協議会運営計画書</p> <p>○グランドデザイン</p> <p>○神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱</p> <p>○令和7年度学校運営協議会について</p> <p>○令和7年度学校設置部会について</p> <p>○令和7年度学校評価（目標設定）</p> <p>○パワーポイント資料</p>
委員からの意見等概要	<p>○校長挨拶と委嘱状の交付</p> <p>○参加者自己紹介</p> <p>○会長、副会長選出</p> <p>○学校運営協議会の組織について</p> <p>【学校評価部会】</p> <p>令和7年度学校評価、目標設定について①</p> <p><視点1 教育課程、学習指導></p> <p>学部間の系統性とは「つながり」と捉え、教員間で共通理解を図っていく。客観的、具体的な根拠に基づく評価が見える化し、児童、生徒の学びの実感、主体的な学びへつなげていく。できるようになったこと、学びの積み重ねはキャリアパスポートの作成、掲示も活用していく。</p> <p><視点2 児童・生徒、指導支援></p> <p>小中学部はアセスメントシートの検証。高等部は1年生では太田ステージ、中学部のアセスメントシートを活用し生徒の実態把握を行う。今年度も校内外の関係者と連携し、多角的な支援、教材データや相談室の実物教材を活用していく。</p> <p>※この後各グループ、学部より補足説明</p> <p><質疑応答・意見等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが学びを実感できるよう、学びの過程を明確にするということは非常に大事な取り組み。 ・キャリアパスポートは各学部での好事例として共有を行い、保護者とも共有できると良い。本人がどういう風になりたいか、本人参加が大事。 ・系統性は、一つは個の発達の順番、一つは教科としての系統性。教科としての階段の見えるもの、学習内容の整理という所を今後していきたい。一人ひとりの学びの積み上げが大事。個の中にある系統性を確実に引き継がれていくと良い。 <p>令和7年度学校評価、目標設定について②</p> <p><視点3 進路指導・支援について></p> <p>キャリア教育、進路に関する情報を、進路学習会等を通して教員、保護者と共有し、児童、生徒指導支援につなげていく。今年度は学校運営協議会、地域協働部会主催の進路学習会を夏季休業中に実施し、教職員の研修にもつなげていく。</p> <p><視点4 地域等との協働></p> <p>進路学習会等でのアンケートを通じて、ニーズを把握し、情報提供の際の参考とする。地域の学校支援では、校内の共有教材をHPやXで紹介するとともに、共通教材ファイルを巡回相談時に活用する。地域の方のボランティア拡充を図り、地域と連携した教育活動を推進する。</p> <p><視点5 学校管理、学校運営></p> <p>学期ごとの全校避難訓練は想定や職員の担当も変えて、未公開、未通知での訓練を計画中。鶴見区総務課防災係の方との協働も引き続き行う。鶴見支援学校は補充的避難場所になっており、それを踏まえた打合せも行う予定。防災に加えて防犯も非常に大切である。働き方改革は急務であり、この学校運営協議会の地域安全部会の中で働き方改革に向けた取り組みについてご助言をいただく予定にしている。</p> <p>※この後各グループ、学部より補足説明</p>

<質疑応答・意見等>

- ・犯罪のリスクを回避する取り組みとして、今年度は情報担当が分教室に毎月行き、例えばスマホの使い方、自分をどう守っていくかという話も検討している。
- ・中学部やもっと早い段階で携帯を持つ可能性がある。電話で「警察です」と言われることに対して対応をしていくことが必要。要望があれば教室開催は可能。防災についても、協力することあればいつでも行う。
- ・学校運営協議会に警察の方が入ることで、貴重なご意見をいただき、見守っていただいていることを非常に心強く思っている。
- ・分教室の公園清掃はとても良い取り組みである。「何を学べるか」というという所ではやはり「社会貢献」だと思う。
- ・SNS という問題は学校と家庭が大事と思う。繰り返しの教育が大事ではないか。
- ・「身につけたい力」を考えた時に、本人がどうあるべきか、ありたいのか。今年8月の進路学習会では移行支援、福祉的な立場からも研修をする。
- ・防犯用のカメラは校内各所についているが、保護者に伝えた方が安心である。
- ・本校の保護者はナンバーキーを押して入ることができる。通知されていない外部の方、業者の方等は必ず事務室に連絡をしてもらうことになっている。
- ・「生きる力」は、世の中を「生き抜ける力」をつけるという視点に置き換えた方が、目標の設定には良い。
- ・学校に来る機会、イベントで等で来る機会が今年もまた一つ減ってしまった。寂しさが後援会としてはある。
- ・防犯防災については、被害者支援センターというのがあり、被災後は大変だという話も聞ける。心理的応急処置というマニュアルがある。
- ・就労、生活介護で身につけたいものはそれぞれ違う。どこから将来を見据えていくのか。
- ・働き方改革は、ただ単に残業しないとか休みをとるとか、そこだけなのかなということをお伝えしていきたい。
- ・現場実習で私たちが知りたいのは生徒の悪い所。共存していけるか。今後とも生活介護、放課後デイも私もしっかり見ていきたいと思っている。
- ・アセスメントは教育をするには必要不可欠、その結果をキャリアパスポートに記録していくのは、絶え間ない支援を行っていく際に絶対に必要。「何のためにやるか」ということを上手く理解して運用していくと良いのではないか。
- ・働き方改革では、ようやく学校でウェルビーイングという言葉がよく使われるようになった。仕事をすることによって幸せになれるか、やりがいがありますかという事。
- ・今の学習指導のトレンドはどういう「力」をつけるか、それをはっきりやるというのが授業改善、支援学校でもそれは同じだということを知れてよかった。こういう「力」をつけさせたいという所を共通認識すればおのずからやることというのは見えてくると思うので、ぜひ実践から精査していただければと思う。

【切れ目ない支援部会・学校設置部会】

<部会からの報告>

地域協働部会

- ・保護者、教職員対象の進路学習会を8月に実施する。
- ・地域協働活動を行っていく上で、地域協働本部がしっかりあるべき。

地域安全部会

- ・防犯防災については、犯罪被害者支援センター方に来ていただき、自分が犯罪者になるかもしれないという教育を受けた方が良いのではないか。防災については、以前行っていた避難所体験、泊まる体験をしても良いのではないか。働き方改革は、イコール時短という考え方ではなく、ウェルビーイング、やりがいを持つという方向で考えると良い。

○全体を通し

ワークキャリアの視点も大事だが、ライフキャリアの学習会、保護者向け地域向けの学習会も必要なのではないか。別の機会にライフキャリアという視点で話せると良い。働き方をやる時にはいろいろな立場からの意見、保護者、企業の視点と関連をもってやるというのも良いのではないか。

○会長挨拶

○校長挨拶

○事務連絡 次回は10月20日(月)9:45～11:45

閉会